

## 第 66 回 企業活性化研究分科会・議事録

＜第六六回 2014 年 4 月 26 日（土）時間：13：30～17：00 於：専修大学（神田校舎）＞

参加者：井端、大野、木村、杉本、高市、夏目、浜田、星野、宮川、山本、横山、依田、渡邊（13 名）

### 1. テーマ：再生企業の分析—中山製鋼所の場合—

・報告者：浜田勇毅 ・配付資料：7 枚

・報告内容の要旨

本報告では、株式会社中山製鋼所（以下、中山製鋼所とする）における業績悪化の原因を明らかにし、収益性分析の観点から経営の再建を図るための検討をおこなった。

中山製鋼所は、2010 年度から四期連続の営業損失を計上している。四期連続の営業損失は、鋼材の販売価格の下落が主原因として考えられる。また中山製鋼所においては、同業種および同業他社に比べ、売上高原価率の高さが指摘できた。直近 2013 年度においては、有形固定資産に関する多額の減損損失を計上し、有形固定資産の整理を試みている。電炉での製造が主となる中山製鋼所は、東日本大震災以後、電気代の値上げが負担となり、今後も多額の経費計上が推測される。そのため、売上原価に対する更なる改善が必要と考えられる。

また、2013 年度においては、多額の減損損失による当期純損失の影響で、債務超過に至るまで財政状態が悪化している。それゆえ、業績改善に加え、早急に債務圧縮や増資に関する資金繰り、財政状態の対策が必要であるとの結論に至った。

### 2. 講演会「経営分析学の現状と課題」

・講演者：青木茂男 ・配付資料：4 枚 ・参考著書『要説 経営分析 [四訂版]』

・講演内容の要旨

本講演では、現在経営分析をおこなう上で利用されている分析指標について、各指標の意味合いを再確認し、より深い理解を得るための説明を戴いた。とくに、ROA と ROE の特性および関係性について教授された。

ROA は、資産の効率性を分析する指標であるため、同業種間での業務成績の比較が可能となる。一方、ROE は、株主資本の効率性を示すものである。従って、ROE は ROA とは異なり、業種特性に左右されないため、他業種も含めた資本効率での比較が可能となる。また、企業の株主価値を上昇させるためには、ROE を高めることが一つの要因となっている。それゆえ、ROE は株主目線における分析指標といえる。

また、ROE を算定するための自己資本において“親会社説”と“経済的単一体説”のどちらかを使用するのかという論点で議論が生じた。この論点においては、様々な意見があり、株主持分の運用を示すことができるのであれば、どちらか一方による必要はないのではとの結論に至った。

（文責：夏目拓哉）